

【評価実施概要】

事業所番号	2771100902
法人名	医療法人 徳洲会
事業所名	医療法人 徳洲会 グループホーム三田
所在地	大阪府岸和田市三田町1 3 4 番地 (電 話) 072-441-5501
評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1 7 9 7 番地
訪問調査日	平成19年10月23日 (火)

【情報提供票より】 (19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤6人, 非常勤7人, 常勤換算7.44人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 (準耐火建築) 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) / 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	315 円	昼食	630 円
	夕食	630 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (10月1日現在 )

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0名	要介護2	0名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.4 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人徳洲会 岸和田徳洲会病院 ・ 医療法人清真会 三田 歯科診療所
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム三田」は岸和田市の山手地区三田町の北側に位置し、老人保健施設岸和田徳洲苑の併設施設として平成13年に開設された。周辺は摩湯山古墳や溜池などに囲まれ緑溢れる環境の中にある。玄関前には菜園と草花のプランター及びベンチが設置され、利用者はそこで思い思いの時間を過ごすことができる。建物内の居間、居室(トイレ付)、浴室などはそれぞれゆったりとしたスペースが確保されている。利用者職員との表情も明るく、職員は「利用者の能力をできるだけ活かしていくこと」、そして「楽しみや生きがいのある生活の支援」を心掛けながら、利用者へ寄り添い、共に過ごし支えあう関係を大切にしたいケアを実践している。食事は毎週日曜日の献立会議で必ず利用者の希望を確認している。また、老人保健施設が併設されていることにより医療・防災面での緊急時の応援体制がある。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回評価での課題は、「定期的なスタッフ会議の開催」及び「地域との関わりを深めること」であった。それぞれの課題について職員間で検討し改善が見られるが、さらに今年度も継続課題として取組むことが望まれる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	サービス評価の意義や目的を職員に伝え、管理者が職員の意見を集約し自己評価を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	利用者、家族等、町会代表者、市高齢課担当者、併設施設関係者及び職員が参加し、グループホームの運営についての説明やホームの地域での今後の取組みについて協議している。今後はより多方面の地域関係者の参加及び会議が一方通行にならないよう地域介護相談会の開催や防災時受け入れ態勢など地域からの要望に応えられるよう検討していく予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族等の来訪時に利用者の状況を報告し、些細な事でも話していただけるように努めている。面会に1ヶ月以上来られない家族等には電話で利用者の状況を報告している。また、クリスマス会や花見、温泉などに家族等をお誘いしコミュニケーションを深められるように努力している。さらに、介護相談員の受入れ、家族等へのアンケートなども実施している。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域では老人保健施設の併設ということもあり、グループホーム単独としての知名度は高くなかったが、運営推進会議を通じて町会との交流が始まった。近隣の保育園・小学校との交流、地域のさまざまなボランティアグループ(泉州昔語り・詩吟、踊りのグループ、紙芝居など)が定期的に訪問している。また、利用者と一緒に利用する近くのスーパーマーケットも顔馴染みになっている。

## 2. 調査報告書

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自のわかりやすい理念がある。 1. 安心と、尊厳ある生活を支援する。 2. 日常生活能力の維持・向上に努める。 3. 楽しみ生きがいのある生活を提供する。	○	理念、運営方針、事業計画書などに「地域住民との交流」や「事業所と地域の関係強化」など地域密着型サービスとしての事業所の役割を示すことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念や事業計画書を事務所前の壁に判りやすく掲示している。新入職員の研修時には理念について説明を行い、さらに、職員の名札の内側にも理念を記載し、職員は業務開始時など必ず目を通すように心がけている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を通じて町会との交流が始まっている。近隣の保育園・小学校の子ども達や、地域のボランティアグループ（泉州昔語り、詩吟、踊りのグループ、紙芝居など）の来訪がある。また、利用者と一緒に利用する近くのスーパーマーケットとも顔馴染みになっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価時の課題は①「定期的なスタッフ会議の開催」及び②「地域との関わりを深めること」であった。それぞれの課題について職員間で検討し改善が見られるが、①の課題について会議の開催がまだ不定期である。②の課題については取り組み始めたばかりである。今回の自己評価については、サービス評価の意義や目的を職員に伝え、管理者が職員の意見を集約し自己評価を行っている。	○	スタッフ会議については職員全員が参加できなくても定期的に行われ、継続していくことが望まれる。さらに、評価結果の課題について検討した内容や改善計画・改善実施状況などを文書として残すことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族等、町会代表者、市高齢課担当者及び職員が参加し、グループホーム運営の説明や地域での今後の取組みについて協議している。今後はより多方面の地域関係者の参加及び地域介護相談会の開催や併設施設への防災時受け入れ態勢など地域からの要望に応えられるように取り組んでいく予定である。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は運営推進会議以外にグループホーム単独で市町村の担当者と行き来する機会はない。他の同業事業者との交流と併せて今後の課題である。	○	例えば地域のグループホーム連絡会の開催を市町村担当者に相談するなど、グループホーム単独で、市町村の担当者と行き来して、サービスの質向上を図っていくことが望まれる。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月毎に「ホームだより」を家族等に送付している。家族等の来訪時には利用者の状況を報告している。面会に1ヶ月以上来られない家族等には電話で利用者の状況を報告している。また、行事の際には家族等に案内しコミュニケーションを深めるように努力している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時には利用者の状況を報告し、些細な事でも話していただけるように努めている。家族等へのアンケートを実施し、その結果を報告している。また、介護相談員も受入れている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者ごとにケア担当者を決めている。職員間で、ケア等に関する疑問点や悩みについてもオープンに話し合う環境づくりに努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設の老人保健施設で月1回以上内部研修が開催されており、グループホームの職員も数回は参加している。参加した研修の内容は報告書にして全職員に周知している。介護福祉士などの資格取得のための勉強会も実施している。今後はグループホームが主体となった研修への取組みが望まれる。	○	年間の研修計画書を作成し、内外の研修を受講する機会の確保が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他市のグループホームとは互いに見学をし合うなど交流しているが、地域の同業事業者との交流や連携について必要性は理解しながら、まだ行っていない。	○	市町村担当者とも相談をしながら地域の同業事業者との連携や交流を検討することが望まれる。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1週間程度の体験入居を行ったことがある。グループホームを見学される際には、利用者と家族等ができるだけゆっくりした時間を過ごしてもらえるように、お茶の時間やくつろいだ雰囲気作りなどに努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	歌、書道、ことわざの意味や家事の一つひとつなど、利用者から生活の技や文化を教してもらった場面を多く持つように心掛けている。菊花の栽培経験のある利用者には花の育て方を、調理師だった方には調理の手順や味付けなどを確認していただいたり、共に過ごし支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には利用者や家族の希望を聞きとり、個別ケア計画に反映している。意思疎通が困難な利用者には時間をかけてでも、表情や手足のサインで、要望などを理解できるように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回管理者、計画作成担当者、利用者の担当者などでモニタリングを実施している。また、少なくとも3ヶ月毎にケアカンファレンスを開催し、利用者や家族等の意向を反映した介護計画を作成している。	○	介護計画の作成時に、利用者及び家族等の希望を確認しているが、今後はケアチームの一員として、利用者・家族等にケアカンファレンスへの参加を呼びかけることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは月1回、利用者の状況に変化が見られる場合には随時実施している。介護計画も必要に応じて見直し、現状に即した計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設老人保健施設の行事（餅つき大会、バイキング昼食、お誕生会などなど）に参加が出来るよう支援をしている。かかりつけ医の通院は、利用者や家族からの希望に応じて職員が支援している。また地域での介護相談会の開催も検討している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院内科医による訪問診療及び歯科衛生士による口腔ケアを週1回受け入れている。また年1回提携クリニックで健康診断を受けている。利用者や家族等が希望したかかりつけ医への通院は基本的には家族が同行するが、それが無理な場合や緊急時など状況に応じて支援している。かかりつけ医の受診結果はその都度家族等へ確認・記録し家族と職員で情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、看取りに関する指針について文書で説明している。状況の変化に応じて、利用者・家族・医療機関と話し合いにより検討していくこととしているが、医療行為が必要になった場合など入居の継続が困難な状態と判断した場合には落ち着く先の確保の支援をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の管理には留意し、第三者の目に触れないよう事務所に保管している。日常のメモなど些細な記録の管理にも注意を払っている。職員は利用者に姓で呼びかけ丁寧に接している。ホーム便りへの利用者の写真の掲載にもプライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホーム内での生活リズムを作るため基本的な流れはあるが、利用者のこれまでのライフスタイルに合わせ融通性を持たせている。日中はそれぞれ利用者が思い思いの過ごし方が出来るよう見守り、支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日毎に献立会議を開催している。そこで献立責任者が利用者の意見、好みを取り入れ、栄養バランスに配慮した献立を作成している。料理の見た目を大事にし、利用者が食事する直前に嚥下機能に応じて切り分けている。外食、バイキング、お弁当など変化を持たせ、食を楽しめるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3日以上で、利用者が希望すれば毎日でも可能である。時間も夜間以外は希望に応じている。同性介助を基本としており、異性介助の場合には利用者の理解を得ている。お湯の温度も利用者の好みに合わせ、入浴をゆっくりと安心して楽しんでもらえるよう配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	絵が好きな利用者に絵描きなど楽しみごとの支援している。洗濯物を干したり、たたむことを役割として自発的に利用者が行っている。友達が来訪された際には一緒に過ごし易いように見守り、支援している。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「美味しいものが食べたい、綺麗な花が見たい」との要望で家族と共に近郊の休養施設である“いよやかな郷”へ行ったり、併設の老人保健施設でのカラオケに参加、近所へ散歩、買い物、外食、家族の元での外泊など利用者の希望が叶うよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関入口は日中鍵をかけていない。利用者の個別の行動パターンを把握し、外出したような素振りが見えた際には声をかけ一緒に散歩に行くことにしている。転倒防止のため夜間巡回を強化しており、家具などの配置にも工夫が見られる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器は事務所、台所、居間などに設置し、非常口を含め避難通路を確保している。消防訓練は年2回実施している。併設の老人保健施設との協力体制も出来ている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に毎日の水分・食事摂取量を把握している。1,000ml以上、1,400~1,500calを目安としている。好みのお茶を好みの温度で楽しめるよう配慮している。栄養バランスの良い献立に工夫し、体重測定を週2回行っている。糖尿病や腎臓病の利用者には米飯の量、砂糖、汁物の量などを調節している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	可愛らしい表札の掛かった玄関に利用者が共同で活けた季節の生け花が飾られている。段差のない床、随所に設置された手すり。居間にはすわり心地の良いソファ、テレビ、新聞、ラジオ、黒電話、日本人形が置かれ、台所からはご飯の炊き上がるにおい、窓からは自然の景色が眺められ、家庭的で和やかな雰囲気となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口には利用者が自宅で使用していた表札、暖簾、小物などで場所間違い防止の工夫を行っている。使い慣れた戸棚、椅子、テレビ、化粧品、写真、仏壇などが持ち込まれ、その人らしい雰囲気の居室となっている。部屋の清掃は職員が利用者と共に行っている。		

※  は、重点項目。